

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|---|---------------|
| 267 | 独立行政法人酒類総合研究所 |
| 題名（原題／訳） | |
| Wine consumption and 20-year mortality among late-life moderate drinkers. 高齢の適量飲酒者におけるワイン摂取と 20 年間の死亡率 | |
| 執筆者 | |
| Holahan CJ, Schutte KK, Brennan PL, North RJ, Holahan CK, Moos BS, Moos RH. | |
| 掲載誌（番号又は発行年月日） | |
| J Stud Alcohol Drugs. 2012 Jan;73(1):80-8. | |
| キーワード | |
| 高齢、適量飲酒、ワイン、死亡率 | |
| 要 旨 | |
| <p>適量飲酒による全死亡率の減少が報告されており、その中でも、デンマーク、米国、フランス、オランダからの報告において特にワイン摂取が全死亡率を減少させることが示されている。しかしながら、この効果は交絡因子の影響の関与ではないかと考えられている。また、社会経済的、生活様式要因に対する適切な対照の欠如の結果とも考えられている。ワイン摂取を好む層は他のアルコール飲料摂取を好む層よりも、より高度な社会経済状態、より健康な生活様式、より良い健康状態指標を示すという複数の報告があるからである。本報告では、これらのことを確認するため、ベースライン調査時に 55-65 歳の 802 名でワイン摂取程度（非飲酒者、ワインをよく飲む適量飲酒者、ワインをあまり飲まない適量飲酒者に区分）と全死亡率の影響を調べ、社会人口学、行動や健康状態要因で調整を行った。共変量で調整後、非飲酒者に比べ、ワインをよく飲む適量飲酒者、ワインをあまり飲まない適量飲酒者の死亡率が減少した。さらにワインをよく飲む適量飲酒者に比べ、ワインをあまり飲まない適量飲酒者は高齢で、男性が多く、健康問題が多く、喫煙者が多く、社会経済状態が低く、身体活動が少ないことがわかった。エタノール摂取量のみで調整するとワインをよく飲む適量飲酒者に比べ、ワインをあまり飲まない適量飲酒者は 20 年の死亡率リスクが上昇した。しかしながら、すべての共変量で調整後、ワイン摂取に関する死亡率の違いは有意ではなくなった。以上より、寿命に関するワイン摂取の影響はワイン摂取に関連した交絡因子の影響と示唆された。</p> | |